

稲作管理特報

令和4年4月28日

入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

70株植えと浅水管理で初期分けつを確保し、「穂数型稲」への誘導を！

育苗管理は換気を徹底し、活力の高い苗に仕上げましょう。
品質の高い「みな穂産米」生産のため、5月10日以降の田植えと適正な植付本数・植付深さの確保、70株／坪植え及び浅水管理で、初期分けつの発生を促しましょう。

1 4月下旬以降の育苗管理 ～換気を徹底する～

ハウス内の温度が25℃以下となるよう換気しましょう。

- ・田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らしてください。ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉めてください。
- ・かん水は、毎朝1回たっぷりに行いますが、フェーン時など床土が白く乾き、葉がまき始めたら、すみやかにかん水をしましょう。
- ・「ばか苗」は必ず抜き取り、抜き取った苗は放置せずに埋設しましょう。

2 代かき ～除草剤の効果をも高める～

代かきは浅水で、稲わらを埋没させるとともに、ほ場の均平に努めましょう。
浅水で行うことで、一発肥料の被覆殻の流出防止にもつながります。

- ・代かきは田植えの2～4日前に行いましょう。
- ・代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去しましょう。

3 基肥 ～適正な基肥量を施用する～

・コシヒカリの場合

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)
一発体系	Jコートコシヒカリ1号または2号	38 (側条)
分施体系	基肥206	30 (側条)

※春に堆肥を1t/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1～2割減肥。

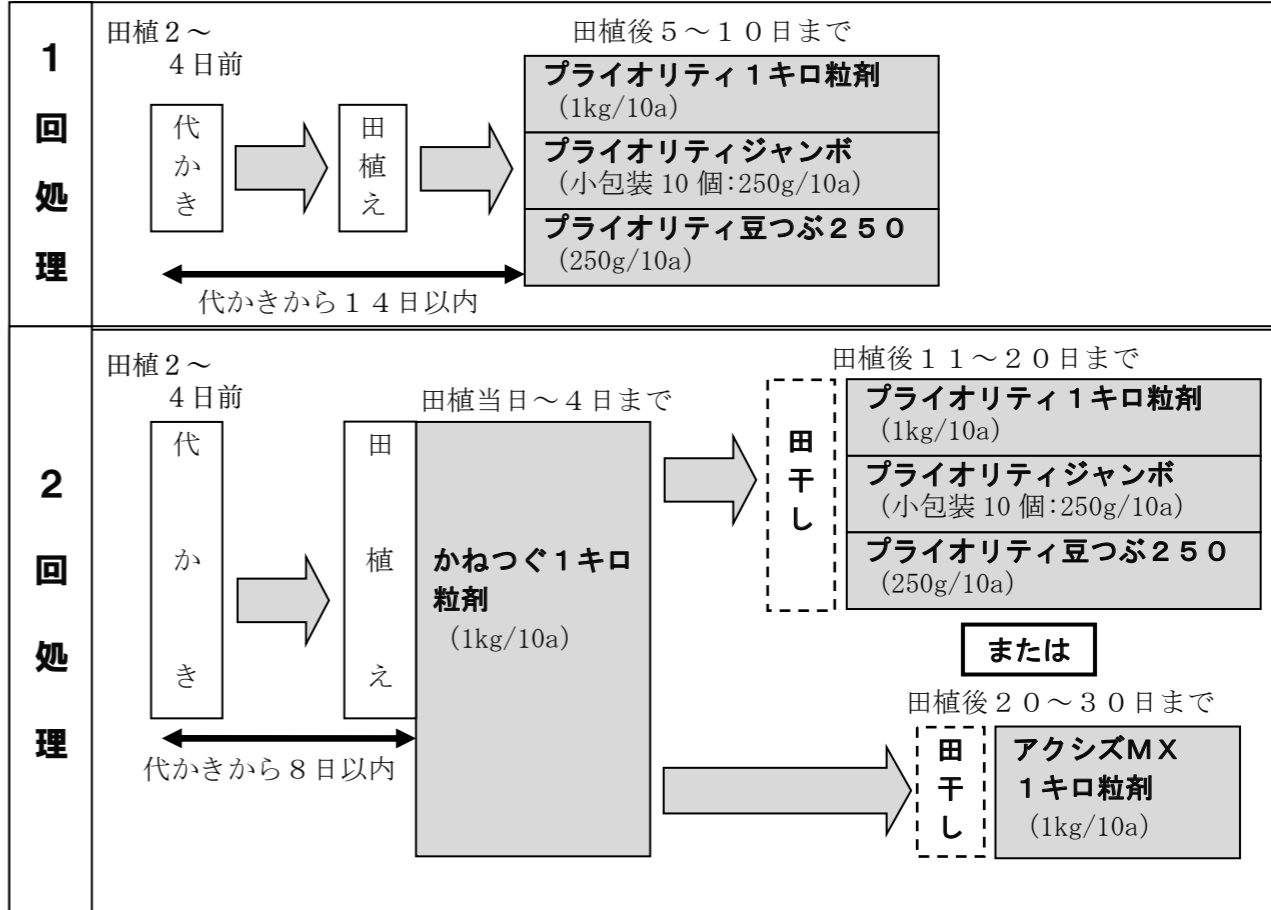
- ・田植前には施肥量調節ダイヤル値を確認し、一定距離を走って落下量を確認してからご使用ください。また、ほ場毎に肥料の施用量を必ず確認してください。

4 田植え ～適正な植付けと水管理で、分けつの確保に努める～

- ・栽植株数は70株／坪とし、初期分けつと穂数の確保に努めましょう。
- ・植付深さは3cm、植付本数は3～4本/株となるように調整してください。
- ・病虫害の発生防止のため、苗箱施薬剤を散布しましょう。散布の留意点は、稲作管理特報第2号を参考にしてください(除草剤と間違えないよう、散布前に必ず確認しましょう)。
- ・田植え直後は苗が水没しない程度の深水とし、活着後は水深2～3cm程度の浅水管理に切り替え、分けつの発生を促しましょう。
- ・入水は朝または夕方に行い、日中は水を止めて田水温の上昇に努めましょう。

5 除草剤の散布 ～使用方法を厳守し、適期に散布する～

- ・散布前に5cm程度入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つようにしてください。
- ・水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し、田面の露出を避けてください。
- ・散布後7日間は落水やかけ流しは行わないでください。
- ・2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行うことで、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



＜かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、次のことに注意してください＞

- ① 漏水の多いほ場では使用しないでください。
 - ② 軟弱苗の場合、田植え同時処理を控えてください。
 - ③ 極端な浅植えや深植えにしないでください。
 - ④ 田植え後は、直ちに入水してください。
- ★JA みな穂営農情報メールを配信しています。
下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

農薬は使用基準を正しく守り、使用後は栽培記録簿に必ず記帳しましょう。

主な情報提供内容

- ・水稲・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策